

CONTENTS

1. 第45回ホームソーイング小・中・高校生作品コンクール入選作品表彰式開催・・・1
2. 第45回ホームソーイング小・中・高校生作品コンクール受賞者交流会開催・・・3
3. 第180回理事会開催・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
4. 第46回ホームソーイング小・中・高校生作品コンクール作品募集開始・・・・・・・・・・4

1. 第45回ホームソーイング小・中・高校生作品コンクール入選作品表彰式開催

2025年3月1日（土）、日本工業倶楽部（東京都千代田丸の内）大ホールにおいて、第45回ホームソーイング小・中・高校生作品コンクールの表彰式が、受賞者、ご家族、学校関係者、来賓、審査委員、報道関係者、当工業会関係者等約90名の出席のもと晴れやかに行われました。

最初に内梨 晋介会長から、お祝いの言葉と共に挨拶がありました。「45回目を迎えた本コンクールは、全国の小学校・中学校・高等学校から、創造性豊かで個性が光る1,925点の作品応募がありました。審査委員による厳正な審査のもと、作品賞239点、学校賞3校が選ばれ、経済産業大臣賞受賞作品は4月に開催される「2025日本ホビーショー」工業会ブースでの展示を予定しています。」続けて、4月から募集開始となる第46回ホームソーイング小・中・高校生作品コンクールについて、「オリジナルの衣服や小物を作ることを通して人に教え人から教わることは、人とのコミュニケーションによってモノづくりの喜びを感じながら自分の成長を実感する重要な場面であり、触る・使う・作るを体験することで必ず何かを生むでしょう。」と応募に対する期待を話されました。また、工業会のホームページに掲載している小学校の家庭科の授業でミシンを学ぶ際に役立つ補助教材「学んで作って楽しいミシン」と、ミシンを使った作

品作りのレシピ集「ミシン手作りダイアリー」の公開について説明がありました。最後に「ミシンを使ったオンリーワンのモノづくりを、また、作品製作の感動を仲間と共有するモノづくりを、学校や家庭でこれからも楽しんで頂きたい」との言葉で締めくくられました。

続いてご来賓の経済産業省 製造産業局 産業機械課課長 須賀 千鶴殿からの挨拶では、「作品づくりを楽しむことや製作過程での試行錯誤は、今の日本のモノづくりにとってとても大切なことであり、皆さんの自信につながることを願っています」と述べられました。また、「ミシンを作る人たちは時代のニーズに合わせて、日々努力して改善を重ねています。日本のミシンは、世界に誇る素晴らしい機能を持っていることを覚えていてほしい」という言葉がありました。

文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 教科調査官 田邊 暁子殿から、「モノづくりを通して得られる充実感や達成感、緻密さへのこだわりや忍耐強さ、チームで作られた方たちはチームワークによる協調性や自発性などを感じたことと思いますが、それらは社会を生きていくうえで極めて重要な力であると思います。モノづくりの魅力をご存じの皆さんの情熱と技術によって技術革新や新たな価値を生み出し、

より良い世界へと未来を作り上げていくとともに、将来のアパレル、ファッション、繊維産業を担うスペシャリストになっていただければ嬉しいです。これからも日常の中でモノづくりというものを通して、アイデアやいろいろな発想を活かした小物やインテリア作品そして衣服などの作品作りに挑戦し、人生をより豊かにそして輝くものにしていただきたいと思います。」とご挨拶頂きました。

経済産業大臣賞は、須賀課長から最優秀賞の5名に、また、文部科学大臣賞は田邊教科調査官から小学校、中学校、高等学校各1校にホームソーイング振興最優秀校として、賞状・副賞が授与されました。

この他、優秀賞、アイデア賞、SDGs特別賞は内梨会長から、特別賞の全国ミシン商工業協同組合連合会技術賞は、同連合会の高松 紘次郎理事長から、賞状・副賞の授与が行われました。

審査の結果については、審査委員長 櫻井 純子殿から、受賞者へのお祝いに続き、「今年の応募作品の特徴は、アートの的に扱った作品が多かったということ。絵画的に布を使って表現したという作品が多くなってきた。1点目は、ミシンに備わっている新しい機能を使い製作していること。若者は新しい機械に慣れるのも早く、それを歓迎して使いこなしている。この傾向はますます進むだろう。その反面、新しい機能を備えたミシンの恩恵を受けられない子供もいる。この場合の評価がこれからの審査で大きな課題となり、工業会でも議題に上げてほしい。2点目としては、相対的に見て堅実にまとめた作品が多かったこと。不安定な社会の様相といった閉塞感を敏感に子供たちは感じているからなのだろう。3点目は、テーマや目標を明確にしてそれを追求し作品を作り上げているということが作品を生み出す要素だと思う。小学生の作品は、大作ではないが「自分の手よって使える物が作れる」ということを楽しんで懸命に取り組んだことが伝わる作品が多かった。中学生の奮闘ぶりは凄く、優秀な作品が多かった。色彩や形、それからミシン縫いへの挑戦の仕方にも素晴らしいものがあった。応募作品数も一番多かった。高校生になると少しおとなしくなるが、質としてはさすがという作品だった。衣服作品部門ではスタンダードな衣服に、デザイン的に少し流行を加味するといった作品がかなり見受けられた。その

他として、リメイク・デコ作品部門で男子が作った作品は、度肝を抜くような、概念にとらわれない自由さがあった。その自由さを奔放に楽しみながら自分の発想を盛り込んだ、そういった様子を感じられた。もう一つはSDGsの観点に焦点を当てて製作するという物が多かった。SDGs特別賞の2作品も、学校の授業でSDGsの観点から追求しようという課題に応えた作品だった。作品作りでは、苦勞し、工夫し、努力し、やっとできたという達成感などいろいろなものが身に備わったと思う。それらの力は、将来何かの時に生きて、力になっていくと思う。これからも積極的に「いろいろな出会い」「これからの将来」「これからのあるべき姿」「自分の思いや希望、願い」に向けて挑戦してほしい。」と審査総評が語られました。

最後に、受賞者を代表して「高校生の部 小物・インテリア作品部門」で経済産業大臣賞を受賞した沖縄県沖縄カトリック高等学校 伊志嶺 真弥さんから、「この度はこのような名誉ある賞をいただき、とても嬉しく思っております。今回の作品はこれまで私の部活動を応援してくれた母への感謝の気持ちを込めて旅行セットを製作しました。

製作過程では大変な作業もありましたが、心を込めて製作したので、使ってもらう時がとても楽しみです。また、私たちの部活動は部員で力を合わせ協力しながら、作品製作で培った技術とミシンの機能を活用して小物を製作・販売し売上金を海外の孤児院や県内の小児科病棟へ贈呈しています。コロナ禍でマスクが不足した時には、男子も含めた有志で200枚のマスクを作り孤児院へ贈りました。ミシンを活用して生活を豊かにするだけでなく、支援を必要としている方々に喜んで頂け



内梨 晋介 会長



須賀 千鶴 産業機械課長



田邊 暁子 教科調査官



櫻井 純子 審査委員長

ることに遣り甲斐も感じています。私たちが製作した小物が、誰かを笑顔にすることを大切に、これからも物づくりの楽しさを発信できますよう励みます。改めまして、本日は本当にありがとうございました。」と挨拶がありました。

2. 第45回ホームソーイング小・中・高校生作品コンクール受賞者交流会開催

表彰式終了後、引き続き同大ホールにおいて、受賞者交流会を開催しました。

会場には、経済産業大臣賞受賞作品をはじめ表彰式に出席された方々の作品が展示され、参加者は一つ一つの作品の優れた出来栄え、確かな縫製技術、個性豊かなオリジナリティ溢れる作品に感心し、改めて作品の素晴らしさを実感していました。

表彰式では、緊張の面持ちが見られた受賞者の皆さんでしたが、交流会場ではご家族、学校の先生方との歓談や、作品を前にして記念撮影をするなど、和やかな雰囲気の中、明るい笑顔の一時を過ごされました。

また、表彰式終了後、会場の一角では受賞者がインタビューを受け、受賞の喜びや作品づくりへの思い入れ、苦労話などを話されていました。



3. 第180回理事会開催

2025年3月7日(金)、15時30分より日本工業倶楽部(東京都千代田区丸の内)において、当工業会の第180回理事会を開催しました。出席者は理事総数14名に対し10名(会場出席6名、オンライン出席4名)と過半数になり、理事会は成立しすべての議案を審議し承認可決しました。ご来賓として経済産業省 製造産業局 産業機械課 課長補佐 國府田 勝行 殿、吉崎 航介 殿にご臨席(会場出席)いただき、議事終了後に「最近の政策動向」を中心にご説明をいただきました。

議題は以下のとおりです。

- 議題1. 2024年度事業報告(一部見込み)について
- 議題2. 2024年度収支決算見込みについて

- 議題3. 2025年度事業計画(案)について
- 議題4. 2025年度収支予算(案)について
- 議題5. 第45回ホームソーイング小・中・高校生作品コンクール事業及び第46回ホームソーイング小・中・高校生作品コンクール事業について
- 議題6. JIAM 2028 会期について
- 議題7. 共通基盤ネットワーク研究会について
- 議題8. 若手社員向け研修会について
- 議題9. インド強制規格の発効について
- 議題10. 今後のスケジュールについて 他

今後の主要な行事等は以下のとおりです。

会議・行事名等	日時・場所	議題他
第181回理事会 (書面審議)	2025年5月 日本縫製機械工業会	①2024年度事業報告、決算報告 ②2025年度事業計画(案)、収支予算(案) ③第56回定時総会の開催 他
正副会長会議	2025年6月9日(月) 12:00~14:20 日本工業倶楽部	①第56回定時総会の審議・報告事項 他
第56回定時総会	2025年6月9日(月) 14:30~16:30 日本工業倶楽部	①2024年度事業報告、決算報告 ②2025年度事業計画(案)、収支予算(案) ③JIAM展について 他
第182回理事会	2025年6月9日(月) 16:30~16:40 日本工業倶楽部	①会長・副会長の選定について 他
第56回定時総会後懇親会	2025年6月9日(月) 17:00~18:30 日本工業倶楽部	①定時総会後懇親会
正副会長会議	2025年10月10日(金) 12:45~14:15 ホテルグランヴィア大阪	①第183回理事会の審議・報告事項 他
第183回理事会	2025年10月10日(金) 14:30~16:30 ホテルグランヴィア大阪	①2025年度上期の事業概要 ②2025年度下期の事業 ③第46回ホームソーイング小・中・高校生作品コンクール 他
正副会長会議	2026年1月21日(水) 11:30~13:00 日本工業倶楽部	①2025年度予算執行状況 ②2026年度予算と会費徴収額 ③第46回ホームソーイング小・中・高校生作品コンクール 他
2026年新年賀詞交歓会	2026年1月21日(水) 13:30~15:00 日本工業倶楽部	①新年賀詞交歓会

4. 第46回ホームソーイング小・中・高校生作品コンクール作品募集開始

全国の小・中・高校生を対象としたホームソーイング小・中・高校生作品コンクールは第46回を迎えました。今回も「SDGs特別賞」を設けています。全作品を対象としてSDGsの取り組みが小物を含めた衣生活にいかされた作品を選出します。また、小学生を対象に工業会ホームページにあります「ミシン手作りダイアリー」に載っているレシピを使って作った作品が対象となるミシンダイアリー部門を前回に引き続き設けております。詳細については当工業会ホームページをご覧ください。

1. 応募部門：

(1)小学生の部(4・5・6年生)

①小学生作品部門(小物・インテリア作品、

衣服作品、リメイク・デコ作品、アニメ・ゲームコスチューム作品全てを含む。)

②ミシンダイアリー部門

(2) 中学生の部

- ①小物・インテリア作品部門
- ②衣服作品部門
- ③リメイク・デコ作品部門
- ④アニメ・ゲームコスチューム作品部門

(3) 高校生の部

- ①小物・インテリア作品部門
- ②衣服作品部門
- ③リメイク・デコ作品部門
- ④アニメ・ゲームコスチューム作品部門

- 2. 応募作品、応募方法等については、当工業会のホームページをご覧ください。
- 3. 締切：2025年10月31日（金）
- 4. 応募先・お問い合わせ先：
一般社団法人日本縫製機械工業会
「第46回作品コンクール」係
TEL. 03-6435-8190
FAX. 03-6435-8192
Eメール：info@jasma.or.jp
URL：<http://jasma.or.jp>

第45回ホームソーイング小・中・高校生作品コンクール 経済産業大臣賞受賞作品



小学生の部
吉田 暁子さん
ガレイソーイングジャム本校



中学生の部
小物・インテリア作品部門
城間 一乃さん
沖縄カトリック中学校



中学生の部
衣服作品部門
瀬川 ももこさん
掛川市立東中学校



高校生の部
小物・インテリア作品部門
伊志嶺 真弥さん
沖縄カトリック高等学校



高校生の部
衣服作成部門
加藤 小春さん
千葉県立佐倉東高等学校

編集後記

春の訪れとともに、新年度が始まりました。4月といえば、新しい挑戦への期待が膨らむ時期。そして、大阪では「2025年大阪・関西万博」が開幕、テーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」。考えてみれば、ミシンもまた「未来を縫う」機械です。生地と生地をつなぎ、アイデアを形にする、まさにクリエイティブな未来を紡ぐ象徴のような存在。業界の未来を真剣に考える機会として、新しい年度を迎えた今こそ、次世代へ向けてどんな一針を縫うべきかを見つめ直したいものです。(Y.O)

JASMA 会報

Vol.22 No.1 2025年4月28日発行

一般社団法人日本縫製機械工業会

発行責任者:山下 龍夫

〒105-0004

東京都港区新橋 5-25-3 第2-松ビル2階

Tel. 03-6435-8190 Fax. 03-6435-8192

URL <https://jasma.or.jp>

e-mail info@jasma.or.jp